

‘22年末手当獲得闘争

「なんで、2.9ヶ月要求なん？」

2022年末手当要求のおける組合側の要求根拠として

- ① コロナウイルスの影響や、輸送障害による減収は理解するが、そもそもの事業計画での数字を高く立てすぎたのは会社経営陣である。組合員への責任転嫁は許さない。
- ② 計画未達を理由に期末手当を抑制するのは許せない。対前年では収入は上回っている。物価高騰で生活が苦しくてもこの間の努力をしてきた組合員には、業績に関係なく還元するべき。
- ③ この3年間、旅客会社は列車を運休してきたが、貨物会社は運休を出していない。しかも、コロナ陽性者が出ても組合員が奮闘して列車を動かしてきた。この苦労を「会社として」報いるためにも「形」として表すべき！

会社として期末手当は「業績給」と言っていますが、私たちにとって期末手当は「生活給」として要求しています。組合員の皆さん、今どれだけの物の値段が上昇しているのか、ご存じですか？ 10月で「6500品目」が、20円から50円値上がりしています。スーパーなどに行っても、カップヌードルが190円で、セール時でも138円でこれが3年前だと同じ商品を通常150円、セール時には100円で購入が可能でした（大阪市内のスーパー基準なのでご容赦を）。

私たち組合員の生活には今まで以上の額が必要です。この要求を勝ち取るのは貨物労組本部ではなく、貨物労組に集う私たち青年部員です。

会社には手当を出せる「体力」はあります。あとは、私達貨物労組の組合員の「団結力」が必要となります。是非とも、11月15日の全国統一集会、各機関での常駐に集まっていただき、11月18日の回答指定日まで熱い闘いをつくり出して行きましょう。

青年部職場討議資料も作ったので、みんなで読んでや～！！